

## 第5回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

1. 日 時：平成27年3月4日（水）14：00～16：00

2. 場 所：ホテル千秋閣 7F鳳の間

3. 出席委員：河口 洋一（徳島大学 准教授）

木下 覺（徳島県植物研究会 会長）

小林 實（河川・溪流環境アドバイザー）

松田 春菜（四国大学 助教）

森本 康滋（徳島県自然保護協会 会長）

山田 量崇（徳島県立博物館 主任）

山中 亮一（徳島大学大学院 講師）

◎湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 教授）

（五十音順、◎：委員長）

4. 配付資料：

資料1 議事次第、配席図、委員会規約

資料2 長安ロダム改造事業の進捗状況[概要版]

資料3 環境モニタリング調査の基本方針及び実施状況[概要版]

資料4 長安ロダム改造事業に係る平成26年度モニタリング調査の実施状況及び  
評価結果[概要版]

資料5 長安ロダム改造事業に係る平成27年度モニタリング実施計画書(案)[概要版]

別添資料1 長安ロダム改造事業の進捗状況と環境モニタリング調査の基本方針  
及び実施状況

別添資料2 長安ロダム改造事業に係る平成26年度モニタリング調査の実施状況  
及び評価結果

別添資料3 長安ロダム改造事業に係る平成27年度モニタリング実施計画書（案）

その他 参考 傍聴される方へのお願い

参考 取材についてのお願い

5. 議 事：

(1) 長安ロダム改造事業の進捗状況について

(2) 平成26年度のモニタリング調査結果について

(3) 平成27年度のモニタリング実施計画（案）について

## 6. 議事概要：

第 5 回長安ロダム環境モニタリング委員会において、長安ロダム改造事業の進捗状況、環境モニタリングの基本方針及び実施状況、平成 26 年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果、平成 27 年度モニタリング実施計画書(案)について審議を行った。

### (1) 環境モニタリング調査の基本方針及び実施状況について

- ・生態系典型性の魚類等の調査について、平成 28 年度より事前調査を実施することは理解した。今後は、工事の状況を確認しながら、生物だけではなく水質も含めて、調査のタイミングや評価方法等の計画について検討し、計画を事前に説明してほしい。

### (2) 平成 26 年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果について

#### 【騒音・振動】

- ・特になし。

#### 【水環境】

- ・水色がしっかりと記録されていることは良いことである。巡視や工事関係者にも周知して、異常な水色の時に対応できるよう留意してほしい。これが順応的管理にもつながると考えている。
- ・今後、工事による濁水が確認された場合は、河床の状況や付着藻類についても調査を実施してほしい。また、下流の住民へのヒアリングも有意義である。
- ・水色を見て、ある程度の水質が分かるようになると良い。水色が異なれば水質も異なると思われるので、将来的には水色と水質の対応関係や細かな分類ができると良い。
- ・夏季に底層の DO が低くなっているので、選択取水の運用検討では留意してほしい。また夏季の底層での T-N や T-P の高い値は、底層 DO の低下によるものと考えられ、今後、選択取水の運用を考えるヒントとなる良いデータが取れている。

#### 【植物】

- ・植物の保全対応は非常に良くやっただいている。徳島県のレッドデータブックは、改定により 882 種に種数が増えているが、逆に言えば、これは徳島県に豊かな自然がある証拠である。ナンゴクウラシマソウは海沿いの暖かい場所に生育していると思われていたが、長安ロダムの調査によって那賀川の山地等にも生育していることが分かった。また、熱心に保全に取り組んでもらったことにより、種の生態や保全方法もある程度分かってくる。

### 【猛禽類】

- ・オオタカについては、平成 21, 22, 23 年は繁殖に成功し、平成 24, 25 年は繁殖に成功していない。平成 26 年は営巣するものの結局繁殖に成功しなかった。平成 27 年は 2 月の調査で 3 例確認されており、今後の繁殖状況に期待している。
- ・サシバについては、平成 21～25 年は繁殖に成功し、平成 26 年は繁殖に成功していない。平成 27 年繁殖シーズンも同じ場所で繁殖することを期待している。
- ・全体として、平成 26 年繁殖シーズンは、猛禽類調査を追加して実施しており、その結果を踏まえて今のところ猛禽類への工事の影響は無いと考えている。
- ・工事による騒音・振動、作業員による立ち入り、照明などについて、繁殖期には十分配慮をしてほしい。
- ・改変区域に近い位置での繁殖の可能性がある場合には、モニタリング調査に加え、コンディショニングによる工事の順化が必要と考えられるので注意してほしい。

### (3) 平成 27 年度モニタリング実施計画書（案）について

- ・特になし。

### (4) その他

- ・各委員に配布いただいた長安ロダム周辺の航空写真は、猛禽類等の生息環境の評価や工事前後の変化を見るのに有効である。今後も継続的に撮影を行ってほしい。
- ・シカの食害対策委員会というものがあり、その中ではシカの食害がどのような影響を与えているのか、どの程度の樹林が無くなってきているのか等について分析し、シカの食害対策を検討しているが、食害で無くなった樹林の再生については検討していない。
- ・那賀川では、出水後に本川の濁りがなかなか治まらないと認識している。那賀川水系では、シカの食害を受けて樹林がなくなっており、雨が降ると土砂崩れが起き、そこが濁水源になっていると言われている。今後は、長安ロダムを含め緑のダムを復活させることで少しでも緩和させることができると考えているが、ダムだけの問題ではないことから、那賀川流域の関係機関にも関心をもっていただきたいと考えている。

以上の議事を踏まえ、平成 26 年度モニタリング調査結果および平成 27 年度モニタリング実施計画書は了承された。

(以上)